

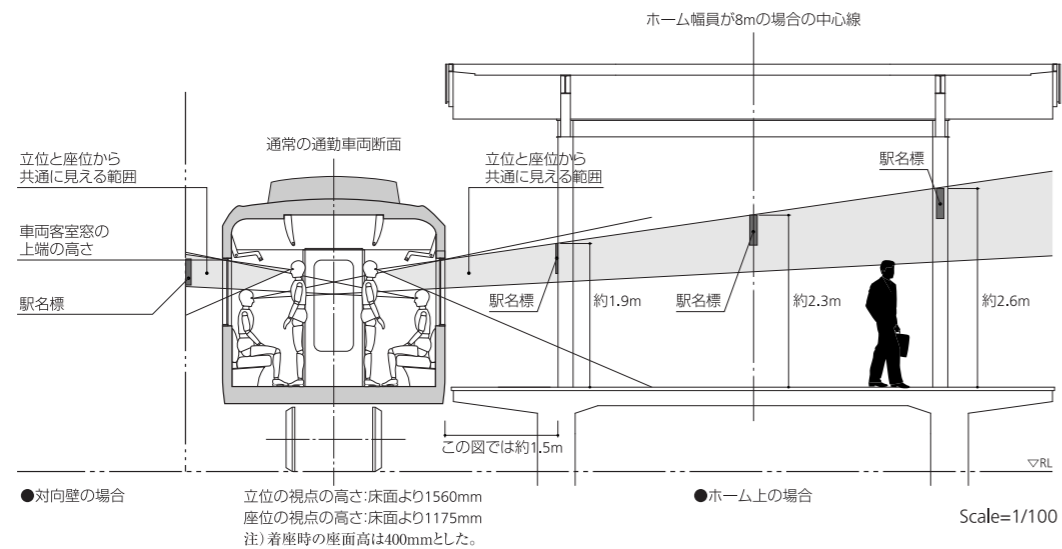
■ 車内から見やすいホーム駅名標の配置方法

駅名標の配置方法について、『公共機関旅客施設のサインシステムガイドブック』には以下のように示されています。

車内から車外への視界は窓によって確保されています。従って車外の見やすい範囲は、車内にいる利用者の視点と窓の上端を結ぶ線より下で、座席に座る人に遮られない窓の半分程度より上の範囲になります。また利用者の視野は、高齢者等にとって体をねじって後方を見る姿勢は取りづらいため、振り向かないでも見られる前方にあるものとして考える必要があります。

ホーム上の駅名標は、一般的には柱付け型、自立型、吊り下げ型などの形式を用いて設置します。下図に示すように、ホームの独立柱に設置する場合は柱付け型を、ホーム中心に設置する場合は自立型を、反対方向の線路側に設置する場合は吊り下げ型を選択すると、旅客流動を妨げることなく、車内から視認できる高さにホーム駅名標を掲出することができます。なお自立型の場合、駅名標の下部に時刻表や鉄道ネットワーク図などの案内サイン等を併設すると、器具の下に人が入るのを防ぎつつ、表示情報の集約化を図ることができます。

また対向壁側の駅名標では、器具の上端を車両客室窓の上端程度の高さにすると、車内から見やすい位置になります。



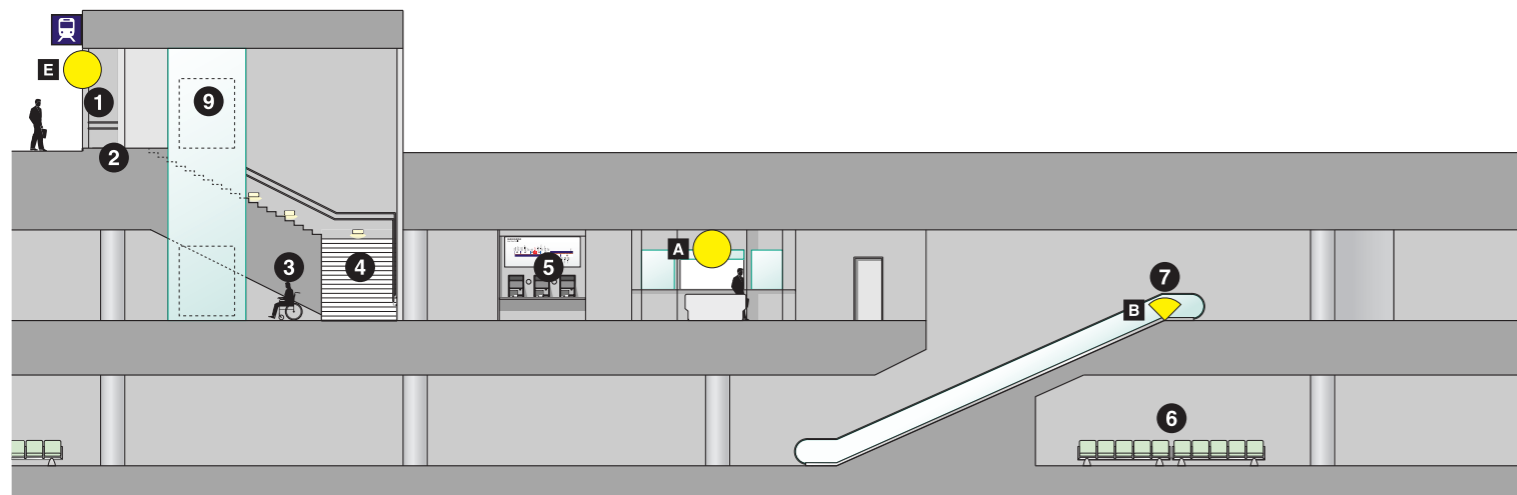
(交通エコロジー・モビリティ財団：公共機関旅客施設のサインシステムガイドブック, 2002)

第3章 乗換のある地下駅のモデルデザイン

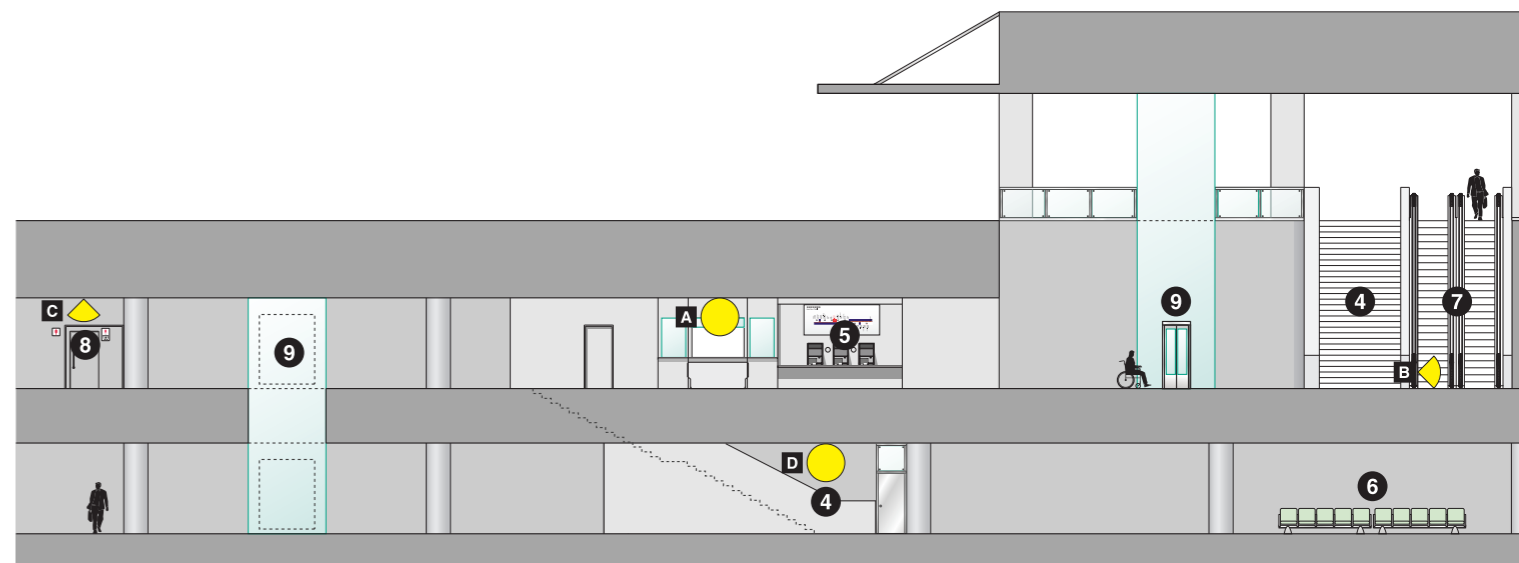
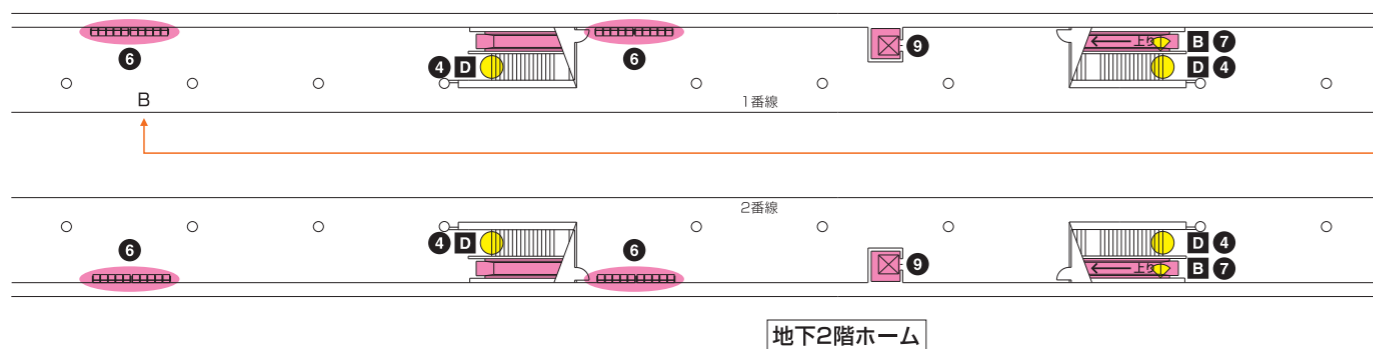
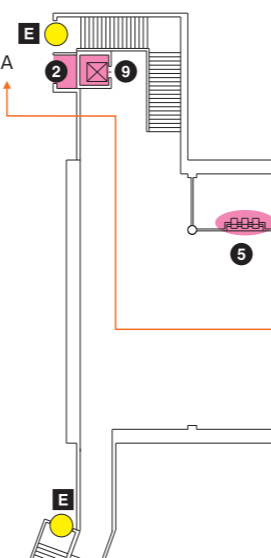
3.1 動線から考える設備配置の考え方

■ 設備配置図

移動等円滑化のための主要な設備：

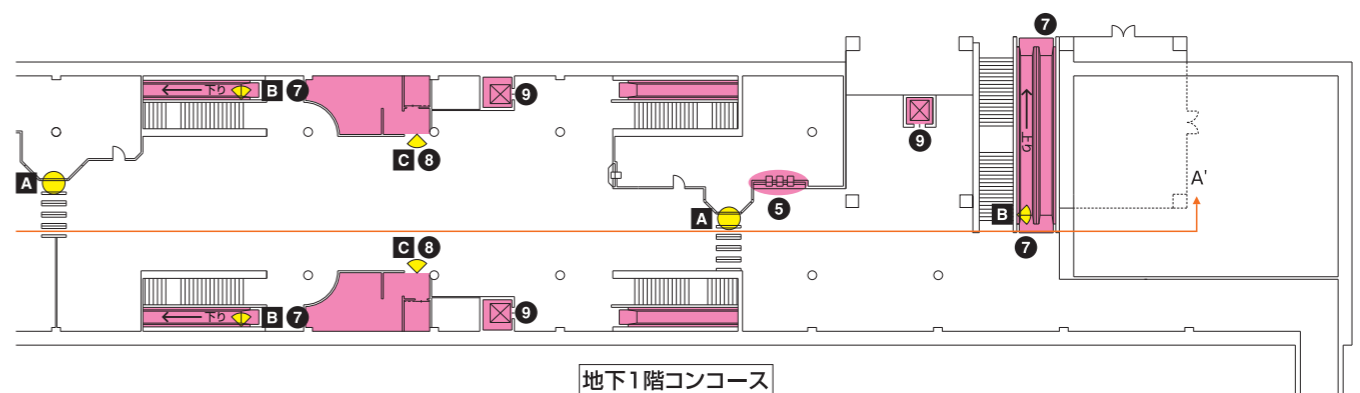


- 1 公共用通路との出入口**
・幅員90cm(180cm)以上とする
- 2 スロープ**
・幅員120cm(180cm)以上とする
・勾配は屋内では1/12以下、屋外では1/20以下とする
・なお、屋内においても1/20以下とすることが望ましい
- 3 通路**
・幅員140cm(180cm)以上とする
・充分な明るさを確保する
- 4 階段**
・幅員120cm(150cm)以上とする
・蹴上げは16cm程度以下、踏面は30cm程度以上とする
・踏面の端部(段端部)は明度等の工夫により、段を容易に識別できる
- 5 乗車券等販売所**
・券売機には高さ60cm程度の蹴込みを設ける
- 6 休憩設備**
・旅客の移動を妨げないよう配慮しつつ、主な経路上に休憩のためのベンチ等を設ける
- 7 エスカレーター**
・くし板から70cm程度の移動手すりを設ける
・乗降口に固定柵または固定手すりを設ける



- 8 トイレ**
・高齢者、障害者等の使用に配慮した多機能トイレを、利用しやすい場所に男女共用のものを1以上設置するか、又は男女別にそれぞれ1以上設置する
- 9 エレベーター**
・幅員80cm(90cm)以上とする
・カゴの内法幅は140cm以上、内法奥行きは135cm以上とする
・カゴと昇降路の出入口扉にガラス戸をはめ込むか、カゴ内外を相互に確認できる映像設備を設ける
・カゴ内に手すりを設ける
・乗降ロビーの幅員は150cm以上、奥行きは150cm以上とする
・乗降ロビーで到着するカゴの昇降方向を音声により確認できる

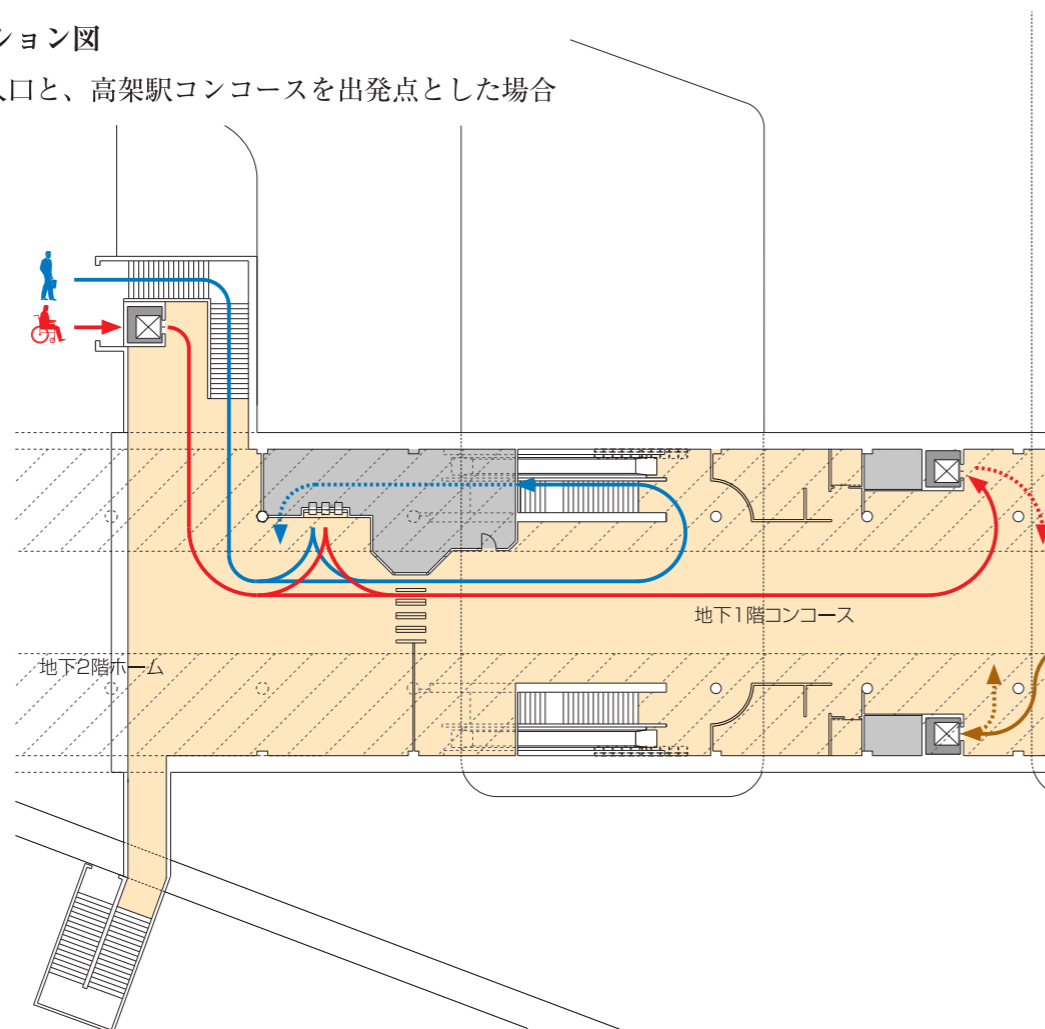
A-A',B-B' 断面図
Scale=1/250
①～⑨: ガイドラインに示されている空間にかかわる標準的な整備内容(括弧内は望ましい数値)



- 音声案内設置位置：
- B エスカレーター**
・進入可能なエスカレーターの乗り口端部において、当該エスカレーターの行き先及び上下方向を知らせる音声案内装置を設置する
 - C トイレ**
・トイレ出入口付近壁面において、男女別を知らせる音声案内装置を設置する
 - A 鉄軌道駅の改札口**
・有人改札口が併設されている場合には、有人改札口に音声案内装置を設置する
 - D 鉄軌道駅のプラットフォーム上の階段**
・ホーム上にある出口へ通ずる階段位置を知らせるため、階段始端部の上部に音声案内装置を設置する
 - E 地下鉄の地上出入口**
・地下駅の地上出入口において、その位置を知らせる音声案内装置を設置することが望ましい
- 音声案内設置位置：
- Scale=1/600

■ 動線シミュレーション図

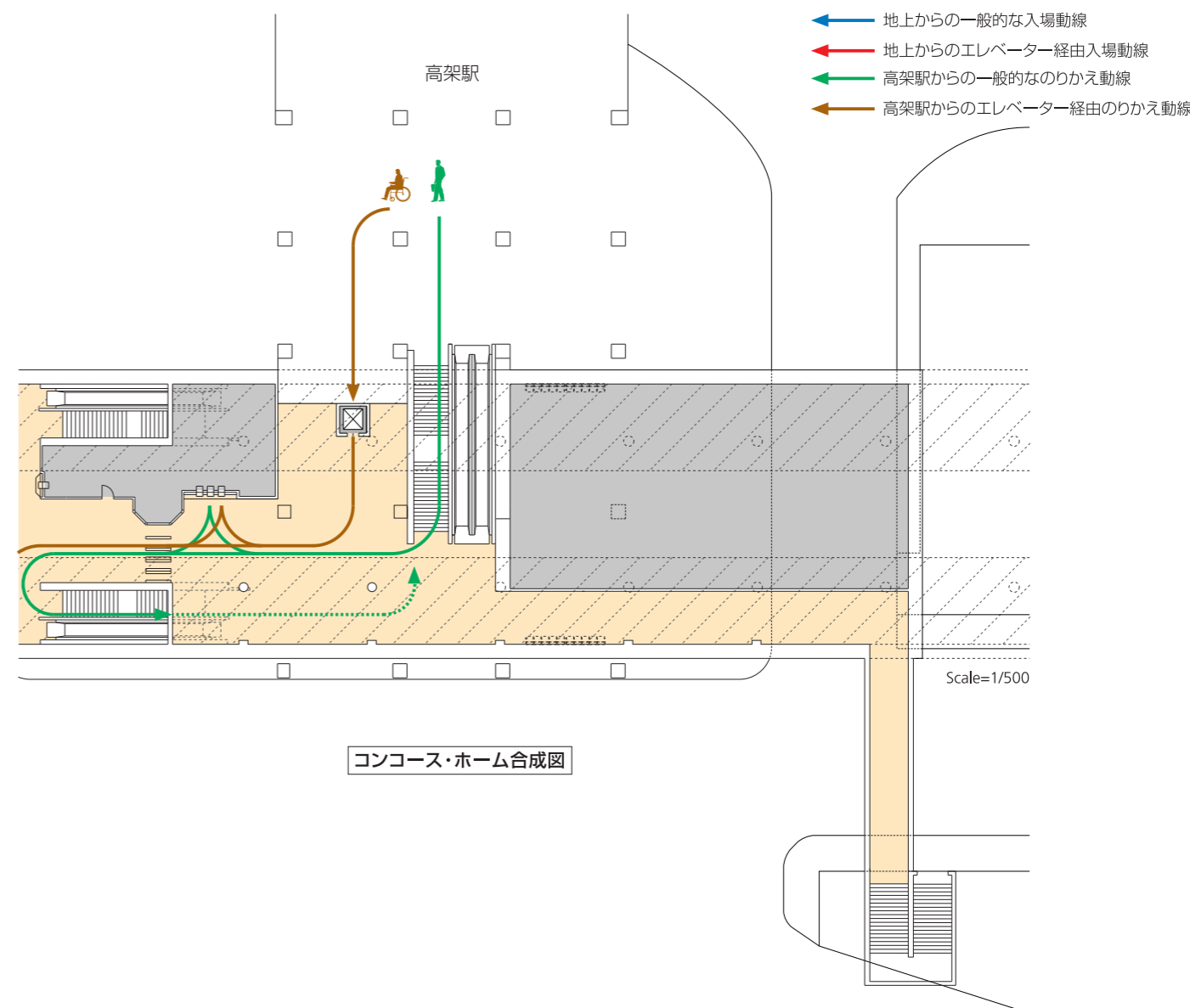
・エレベーター付出入口と、高架駅コンコースを出発点とした場合



3.1.1 設備配置の考え方

地下駅であっても、バリアフリーの観点からその移動動線について望まれる整備水準は高架駅の場合と同様です。そのような考え方をもとに、高架駅との乗換駅である環七線松並駅の設備配置計画図を前頁に例示しました。

- ① 高架駅との乗換空間は、見通しを確保できるように吹き抜け構造とした
その結果乗換用エレベーター、乗換用エスカレーター、乗換用階段を改札前から一望できる
- ② 改札内コンコースとホームを結ぶエレベーターは、移動動線を短くするために2つのホーム階段の中央に配置した
- ③ トイレも、移動動線を短くするために2つのホーム階段の中央に配置した
- ④ トイレは使いやすい面積を確保するために、男女それぞれを2カ所に分離した
- ⑤ ホーム上のベンチはできるだけ数多く配置した
- ⑥ 地上と改札階を結ぶエレベーターは、方向感覚を保ってスムーズに乗降できるようにスルー型とした



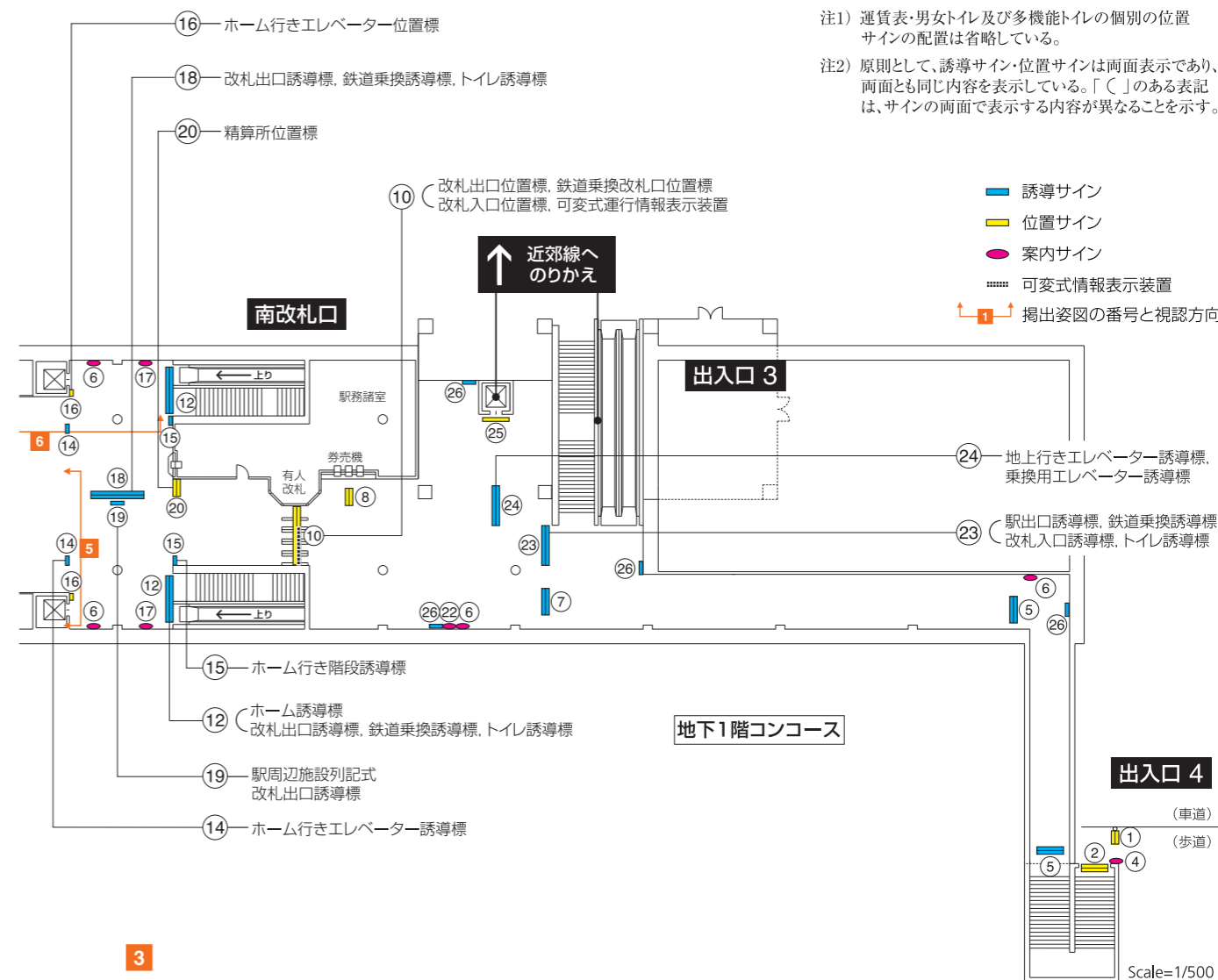
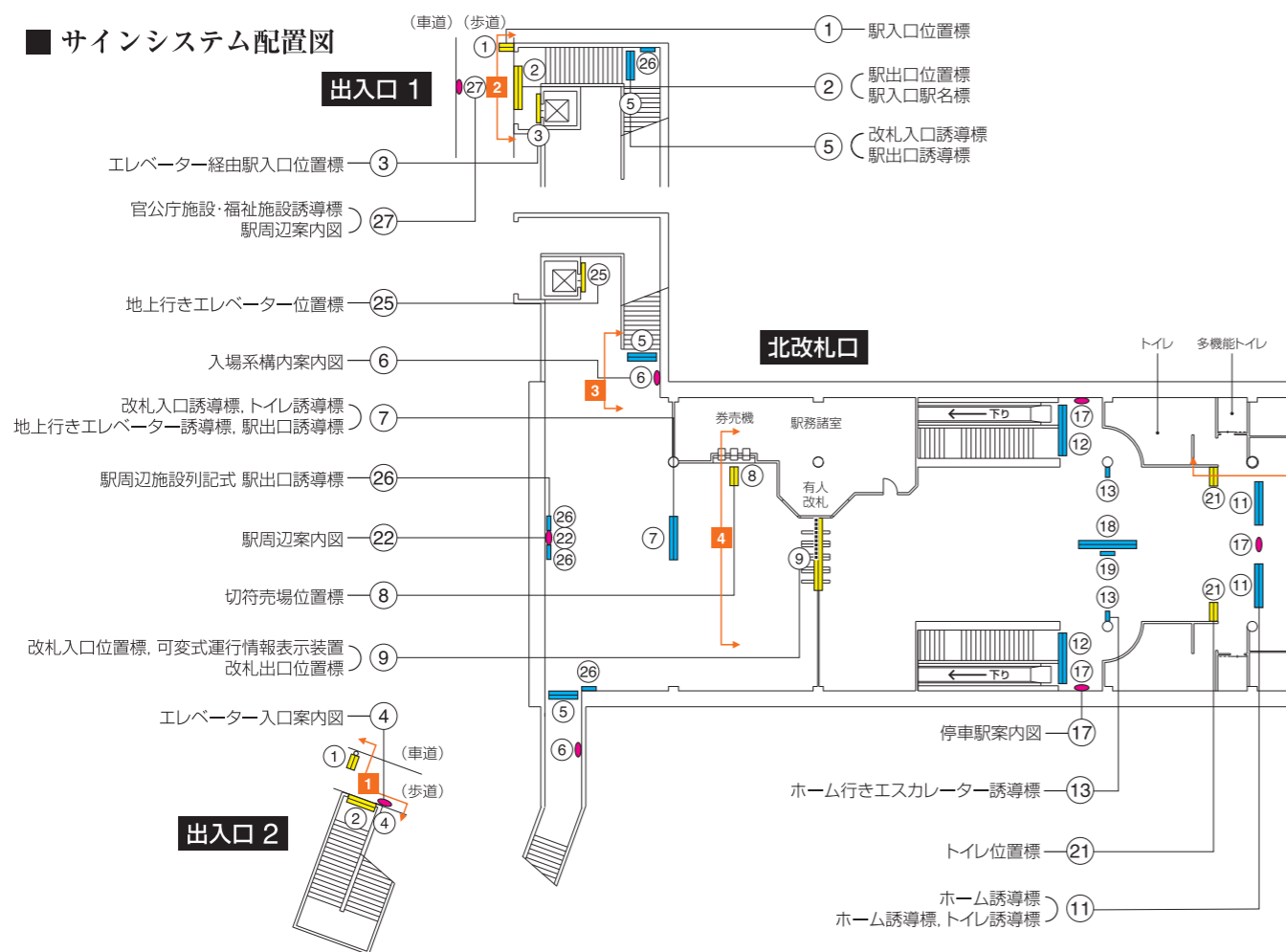
3.1.2 動線シミュレーション

ここでは図面左手のエレベーター付出入口と、高架駅コンコース(地上1階)の2カ所を出発点とした動線を例示しています。

この駅のように線路上に改札口が2カ所ある場合、八の字型の階段を配置すれば階段経由でホームに至る距離はどの改札口からでもほぼ同じ長さにすることができます。ただしエレベーターの開口部を線路と平行位置に設ける場合、エレベーターまでの距離はどちらかの改札口が有利になります。ここでは乗降人員が多いと予測される乗換側を短くすることにしました。

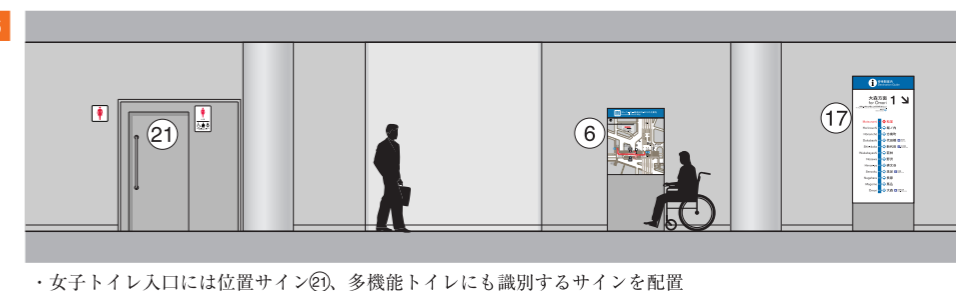
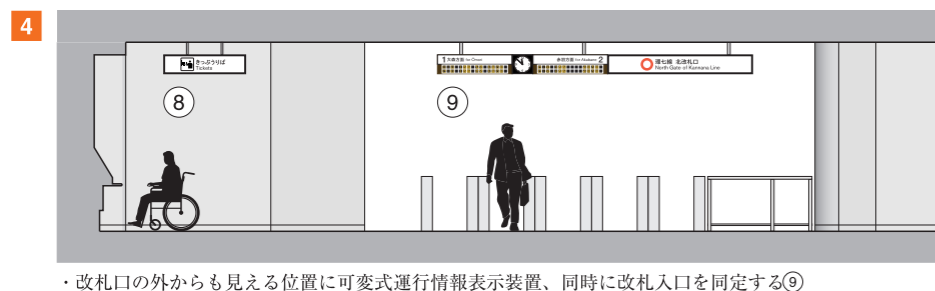
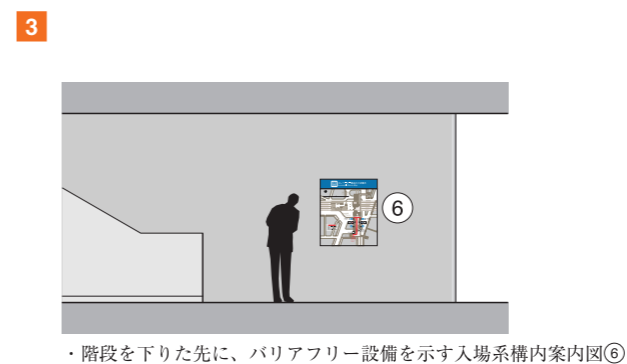
3.2 サインシステムの配置計画

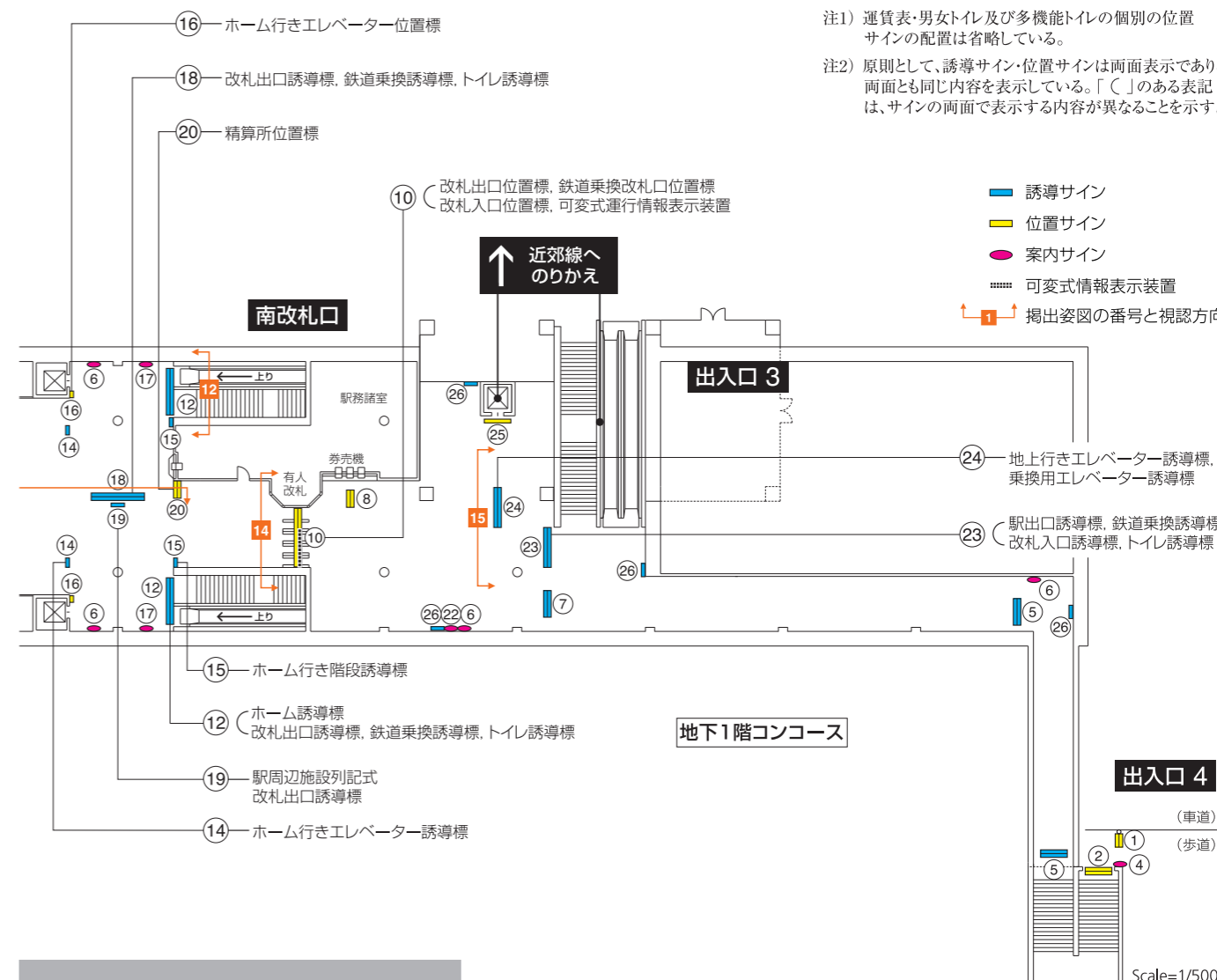
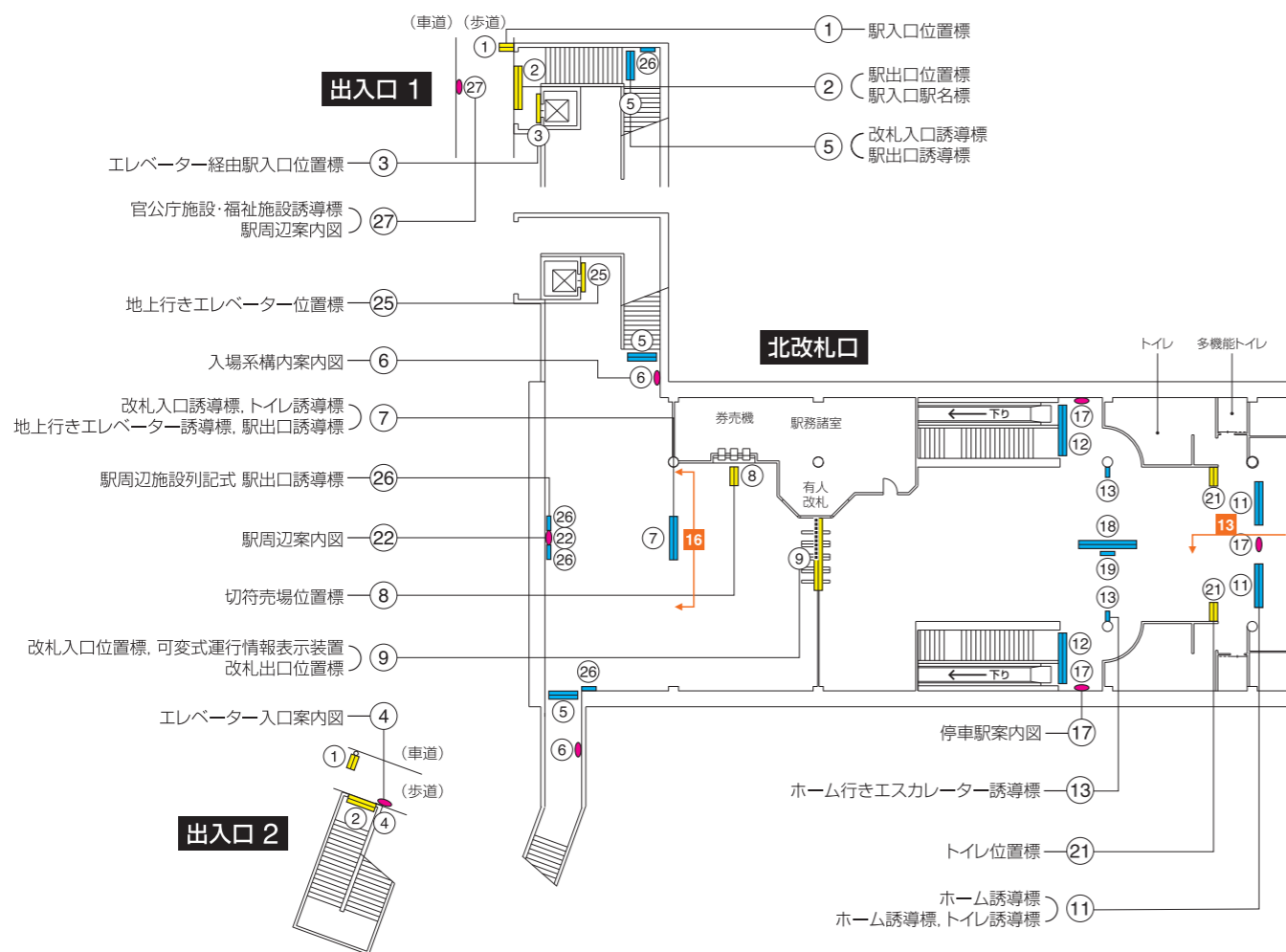
■ サインシステム配置図



注1) 運賃表・男女トイレ及び多機能トイレの個別の位置サインの配置は省略している。
 注2) 原則として、誘導サイン・位置サインは両面表示であり、両面とも同じ内容を表示している。「C」のある表記は、サインの両面で表示する内容が異なることを示す。

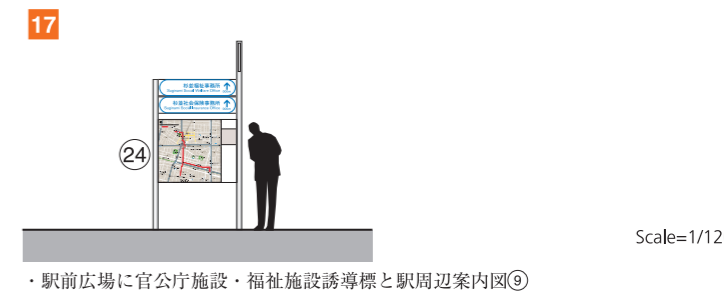
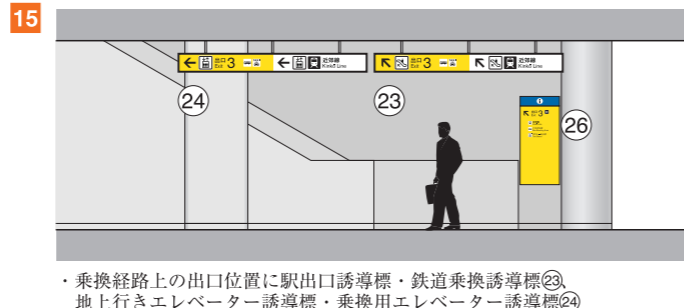
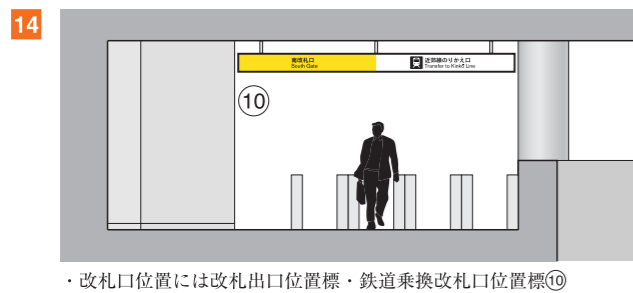
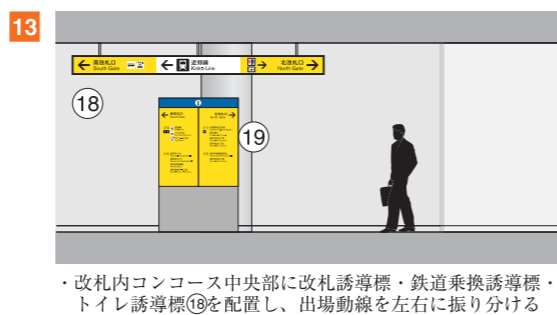
3.2.1 乗車系 / 駅出入口～改札内コンコース





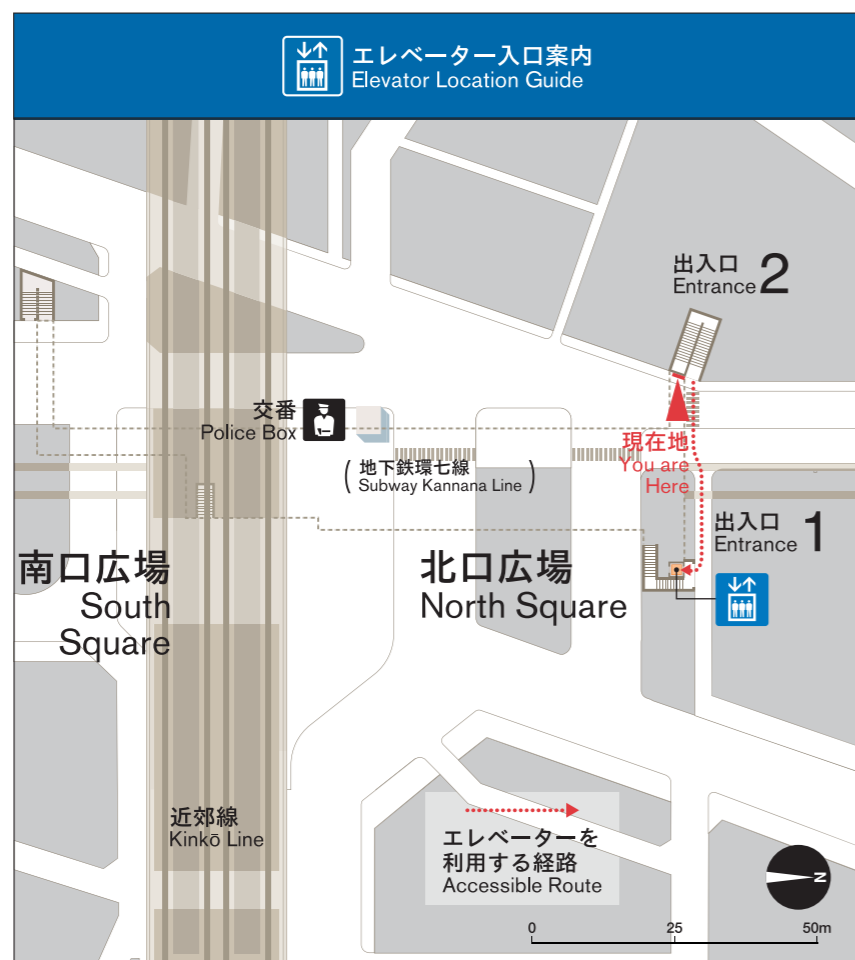
注1) 運賃表・男女トイレ及び多機能トイレの個別の位置サインの配置は省略している。
 注2) 原則として、誘導サイン・位置サインは両面表示であり、両面とも同じ内容を表示している。「C」のある表記は、サインの両面で表示する内容が異なることを示す。

3.2.3 降車系 / 改札内コンコース～駅前広場



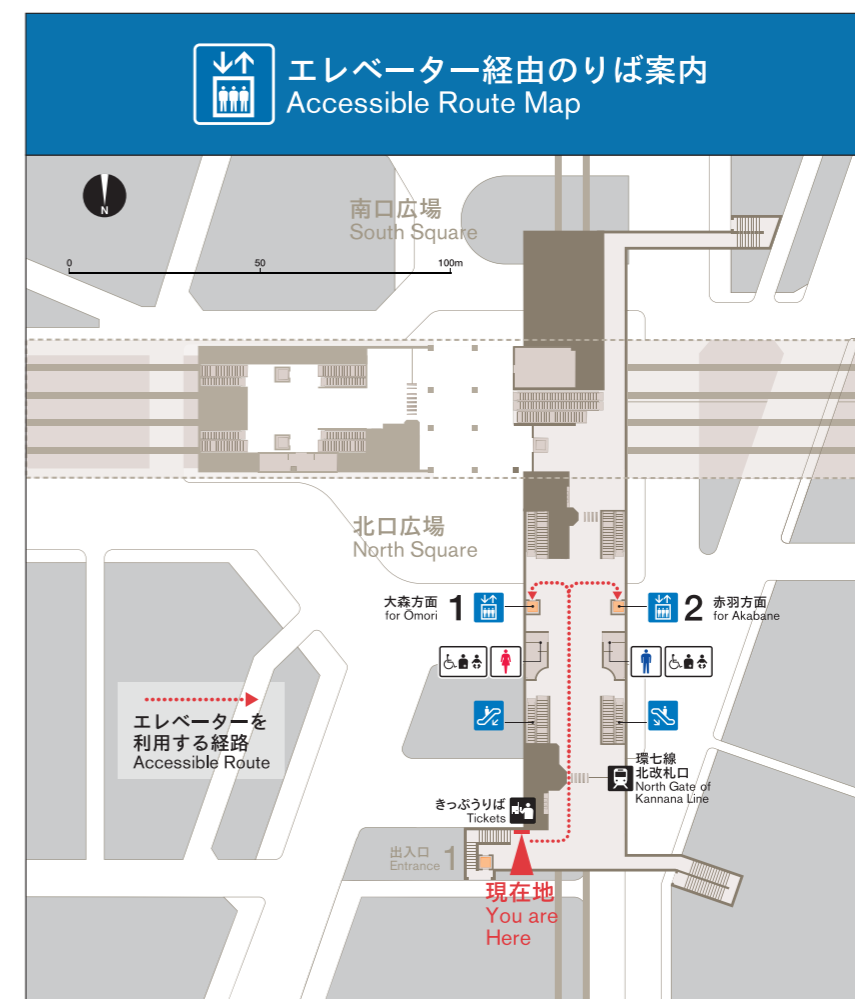
3.3 各種サイン類のグラフィックデザイン

[1] エレベーター入口案内図：④



- ・エレベーターが設けられていない駅入口の見やすい壁面等に設置するこのサインは、地上から地下駅にエレベーター経由で入場できる駅入口の位置を図解するものです。
- ・図示する情報には、①このサインを掲出する出入口、②エレベーターのある出入口、③その間の経路、④その間の経路を理解するのに役立つ周辺の道路構成や施設などが考えられます。多くの場合、横断歩道などを記入したほうがわかりやすくなります。
- ・掲出位置の制約から、視認位置から後方への移動を案内する場合もよくあるので、移動方向がわかりやすくなるように表示範囲等を工夫する必要があります。
- ・図の向きは、人間が直観的に理解しやすい“前後左右”の座標に従って、描いている空間自体の左右と図上の左右が一致する向きとします。
- ・このモデルデザインの図解サイン中のエレベーター・ピクトの色彩は、道路のガイドラインの地図付案内標識の表示基準にならって道路標識の青(参考値：マンセル2.5PB3.5/10, PANTONE 2945C, DIC N-890, 日塗工 Y72-40T)にしています(参考文献3)。
- ・移動経路は赤点線で表示しています。

[2] 入場系構内案内図：⑥



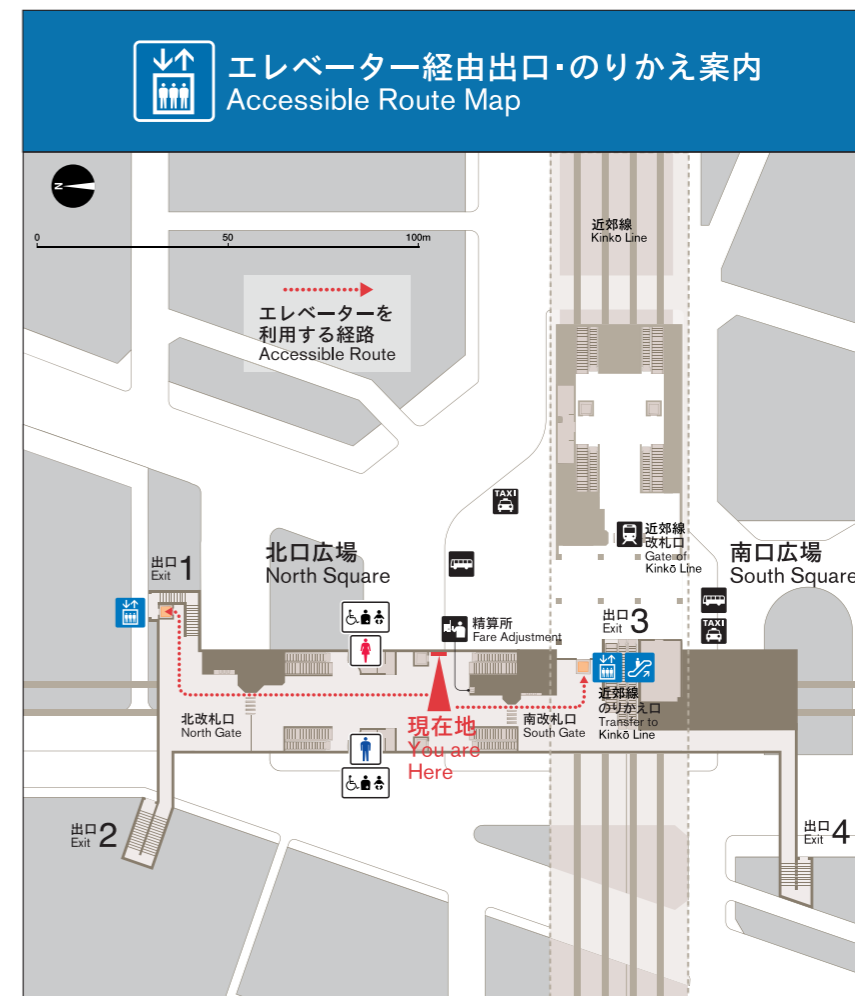
- ・駅出入口から地下駅の構内に入ってすぐの箇所に壁付け型等で設置するこのサインは、高架駅の場合と同様に、駅出入口・ホーム間にある移動等円滑化のための主要な設備の位置のほか、鉄道利用に必要な施設・設備の位置を図解するものです。
- ・図示する情報には、①切符売場、②改札口、③ホーム行きエレベーター、④ホーム行きエスカレーター、⑤ホーム行き階段、⑥トイレ、⑦乗換用エレベーター、⑧乗換用エスカレーター、⑨乗換用階段などがありますが、ここでは地下駅への案内を優先するため、文字による同定表記は地下駅部分に限定します。エレベーターを経由して地下ホームに至る経路は赤点線で示します。
- ・図の向きは、[1]と同様に、空間自体の左右と図上の左右が一致する向きとします。
- ・図の掲出高さは、図の中心を立って見る人と車いすから見る人のほぼ中央(床面から135cm程度)になるようにします。

[3] 停車駅案内図：⑬



- ・改札内コンコースから左右のホームに至る分岐箇所を設置するこのサインは、上り線・下り線それぞれの全停車駅を図解するものです。
- ・図示する情報には、進行方向別に、①駅順の停車駅名、②各々の駅番号、③各駅に結節する(乗り換え)路線名、列車種別がある場合はその種別の各々の停車駅、当駅からの所用時間などが考えられます。
- ・図の向きは、駅順を縦に並べる場合は進行方向に向かって上から下、横に並べる場合はできるだけ実際の列車の進行方向に合わせて、というのが基本的なレイアウトになります。
- ・図の掲出高さは[2]と同様に、図の中心を床面から135cm程度の高さにします。

[4] 出場系構内案内図：⑯



- ・このモデルデザインでは改札内コンコースのエレベーター前と高架駅との乗換側改札口前に設置しているこのサインは、エレベーターを経由する乗り換え経路と、エレベーターを経由する地上出口への経路を図解し、同時に改札内コンコース・駅出入口間にあるその他の移動等円滑化のための主要な設備の位置を図解するものです。
- ・図示する情報には、①乗換用エレベーター、②乗換用エスカレーター、③乗換用階段、④エレベーター付駅出入口、⑤その他の駅出入口、⑥改札口、⑦トイレなどがあります。
- ・エレベーターを利用する経路は、赤点線で表示します。
- ・図の向きは、[2]と同様に、空間自体の左右と図上の左右が一致する向きとします。
- ・図の掲出高さも[2]と同様に、図の中心を床面から135cm程度の高さにします。